



この新聞はHP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上のQRコードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

2025年(乙巳で蛇の年)、明けましておめでとうございます。「巳」こと蛇が冬眠から目覚め地上に這い出すことから、巳年(みどし)とは力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、また蛇は脱皮するので「再生と誕生」の年も意味するそうです。世界中が大混乱のなか希望の年へ脱皮するよう祈るばかりです。

さてここでは、昨年秋のささやかな経験を話題にします。10月下旬にインドネシアのパジャジャラン大学へのアジア訪問団に同行しました。インドネシアは土地勘があり言葉もできるのでお役に立てそうだからです。前もって先方の事情を調べて驚きました。学長、文学部長、日本研究学科長がみな女性になっていたのです。その時点でこちらの訪問希望者は7人でしたが

(私を含め)全員が男、これは困ったなと思いましたが。幸いその後3人の女性が変わりほっとしました。

もうひとつ、在ジャカルタのJICA事務所長、NHKと朝日新聞の支局長の3人も女性と知り驚きました。私が現役でインドネシアの歴史や経済の研究に携わっていた1970年代からの約40年間、これらのポストに就いていたのはいつも男性です。インドネシアでも日本でも、女性の社会進出が静かに進んでいるのを実感する旅になりました。



パジャジャラン大学訪問紀行

パジャジャラン大学を6年ぶりに訪問しました。ピカ先生をはじめ日本研究学科教員の皆さん、Iメイト学生のアリサさん、シャムさん、フィタさん、タタさんのお蔭で、充実した交流プログラムを体験することができました。

10月24日、加納啓良理事長以下参加団員11名は、パジャジャラン大学トゥウン日本研究学科長、ピカ先生ほか日本研究学科教員、Iメイト学生との顔合わせを兼ねた前夜祭ディナーにおいて和やかに懇談しました。

翌10月25日には、バンドン郊外の素晴らしい大学キャンパスを訪れ、2クラスの日本語授業を参観、午後からIメイト学生など50名が参加して行われた交流プログラムでは、日本とインドネシアの「お化け」についてプレゼンを双方で行った後、6グループに分かれ、



<日本研究学科玄関前>

忘れがたい素晴らしかった交流会

ジャカルタから新幹線でバンドンへ。学生との交流の一日目、双方のプレゼンテーションの後、小グループに分かれディスカッションが行われた。学生の進行役はフィラさんとマルズキ君で、積極的に皆をまとめ、一人一人が発言できるように促していた。夜、懇親会がプールのあるホテルで行われ、学生たちのソーラン節のダ



<左が北郷さん右はガイド>

本当に楽しい交流

アジア風のパジャジャラン大学訪問、私にとって本当に忘れられない経験でした。正直なところ、日本語があまり上手ではないので、最初はちょっと緊張していたのですが、みなさんが本当に温かい挨拶をしてくれて、本当にうれしかったです。アジア風の皆さんと交流会に参加できて本当に良かったです。今日まで、お化けと幽霊のプレゼンテーションは面白かったので、まだ覚えてます！プレゼンテーションの後のグループトークもとても楽しかったです！！

もうひとつ印象に残っているのは、ホテルでの懇親会です！！

その感想など語り合いました。並行して、本格的な茶室にて茶道部の皆さんが裏千家の作法で点てて下さったお茶を頂きました。夕方からは、近くのホテルレストランに移動してインドネシア料理を楽しみながら、日本からは尺八演奏と坂本九ちゃんなどの歌、Iメイト学生からは、伝統楽器アングルの演奏、よさこいソーラン演技、軽音楽部によるバンド演奏がパフォーマンスとして披露され、最後に全員で五輪真弓の「心の友」を合唱して盛況のうちに散会しました。

10月26日は、団員8名とIメイト学生20名が参加して、バンドン郊外のタンクバンブラウ火山ツアーに出かけました。標高2千メートルの巨大な山頂噴火口を初めて見た学生からは歓声が上がりました。その後、有名なローカルフードのスダ料理をランチで頂いて、3日間にわたる交流プログラムを終えました。

(事務局長 西澤 逸実)

ンス、竹の楽器での演奏、軽音楽部の演奏等があり、最後に全員で「心の友」を歌ったが、これには感激した。

次の日、バスで火山に行く。朝ホテルのロビーに学生達が入ってきて、フィラさんが来たので「フィラさん、お早う」と言った。バスの中ではフィラさんが、隣に座りいろいろおしゃべりをした。ドラえもん、サザエさん、ダンゴ虫とカブト虫、そして女の子のイラストを描くのが好きと言っていた。将来は日本で働きたいとも言っていた。話題は尽きなかった。今回全てが、輝く宝石のような良い思い出になった。

(正会員 北郷 和博)

私は軽音部で演奏していて私以外のメンバーは1年生なんですけど、私たちが演奏しているときに、アジア風のみなさんが盛り上がっているのを見て、すごく嬉しいと言っているのを見ると、本当に嬉しくなりました！

アジア風のパジャジャラン大学訪問は大切な経験になっています！いつか、またインドネシアに来てください！

(パジャジャラン大学3年生 エオネリスア リエスタハリム
Iメイトは桑江 勝巳さん)



<プレゼンテーション>



九州交流会

創設から21年、このたびアジ風は11月9日と10日、初めて九州地区で交流会を開催しました。学生の留学先が名古屋・関西地区から九州地区へも広がりを見せていること、TSMC熊本工場の進出などでビジネスの展開や留学生の増加が見込まれ、いま九州地区が熱いと考えたからです。今回の交流会参加者は、留学生7名と会員15名の総勢22名でした。

九州交流会のプログラムは上高子名誉顧問の挨拶で始まり、アジ風の設立当初からの目標であるアジアの平和、世界の平和への強い願いと常に話し合うことの大切さをリマインドされ、また、九州地区の経済発展にアジ風の今後の成長を重ね合わせて期待したいと述べられました。



今回の開催に当たっては熊本在住の正会員荒木春洋さん・民子さんご夫妻に企画から実施に至るまで、大変お世話になりました。交流会ではアジ風の理念に共感された地元

2024年の目標が達成できた交流会

熊本での交流会は、事務局の皆様や荒木御夫妻のご尽力により、充実した2日間となりました。心から感謝申し上げます。久しぶりに留学生と話す機会を得て、皆さんの前向きで真摯に頑張る姿に感動し、楽しい時間を過ごしました。会員の皆様と交流できたことも嬉しく思います。

また、熊本城や阿蘇、水前寺公園などを訪れ、熊本の魅力を存分に味わいました。地震を乗り越えた再生への着実な歩みや、イ

感銘の旅

九州交流会のおかげで、充実した週末を過ごすことができました。熊本に来る前、私は「くまモン」というキャラクターが有名であることしか知りませんでした。この2日間の観光を通じて、美しい自然や豊かな歴史に触れ、心から感動しました。熊本城と夏目漱石の旧居の見学では、その歴史的な魅力を体感しました。美しい阿蘇山では、小雨が降っていたものの、皆さんと写真を撮ったり、会話を楽しんだりしながら、たくさんのお話を学び、お互いの理解を深めることができました。

アジ風奨学生レポート

施 変敏 (シ エキビン) さん

2023年度第六回奨学生、施変敏さんは園田成和さんのIメイトで、2023年9月に清華大学から東京大学大学院に留学し、「日本人の対中親近感における世代差について」を研究しています。

2024年9月の第22回アジ風総会では司会を担当し、その後、奨学金を寄付して下さった会員との懇親会では、彼女の研究を紹介してくれました。日中国民の心理的な距離がやや離れている昨今、会員にとっても興味深いテーマでした。

(副理事長 奥山 寿子)

昨年9月の懇親会では、会員の皆様にご自分の研究を紹介し、それを巡って議論を深める機会を頂きました。研究背景として、私は日本人の中国に対する親近感が過去30年間で悪化した経緯と、対中認識における世代差について説明しました。その上で、一昨年に実施したアンケート調査をもとに、世代間の対中親近感の違いを定量分析によって明らかにしようとする取り組みを

企業の会長（荒木さんの高校時代の同級生）から留学生全員にLEDスタンドのサプライズプレゼントもありました。ランチタイムは、お弁当を食べながら、九州在住の竹宮曜子さん（福岡）、深尾和一さん（福岡）、小関恵子さん（別府）、勝福代さん（鹿児島）の地元愛に溢れるお話を耳を傾け、改めて九州の多様性と魅力を感じました。



<サプライズプレゼント>

その後、日本三名城の熊本城を見学し熊本地震で崩落した石垣に被害の大きさを実感！夏目漱石旧宅では広い畳の部屋で文豪の雰囲気を感じました。最後は、ビヤレストランでの打ち上げで、大いに盛り上がりました。翌日は、オプションツアーの阿蘇山観光でした。留学生は全員参加してくれ、仲よく交流を重ねることができました。阿蘇山の雄大な景色を堪能したあと、小雨交じりの水前寺公園を散策し、実り多い九州交流会を終えました。

(理事 古海 正子)

ンバウンド対応の進化には、熊本の遅しさと先見性を強く感じました。

最後に、2024年の私の目標「アジ風オンライン講座参加」「Iメイト交流」「交流会参加」が、この「九州交流会」のおかげで全て達成できました！ありがとうございました。

(正会員 勝 福代)



そして、「アジ風の理念とは何か？」という質問も印象的でした。当初、私は日本語学習や文化交流を促進する団体だと考えていましたが、「相互理解を深め、アジアの平和や世界平和に貢献する」という理念を知り、大きな感銘を受けました。この経験を通じて、私もさらに日本語を学び、できるだけ平和に貢献したいと強く感じました。

(清華大学留学生 裴 雨桐 ハイ ウドウ

Iメイトは樋口 京一さん)



紹介しました。アンケート調査から得られた実証的な結果は代表性が高く、多数派の意見を反映しやすい利点がある一方で、政治的・文化的な要因が実際に人々の対中認識にどのように影響を与えるのかを掘り下げるのは難しいです。

今回懇親会で皆様の個人的な体験談、及びその後メールで送って頂いた回答を通じて、中国に対する態度が変わった理由、また、中国や中国人に対する評価が時には乖離していることを認識することができました。これらの発見を踏まえ、この研究の結果がどのように日中友好交流に寄与できるか、また、若者層や高齢層の対中親近感をどのように向上させるかを探究しながら、研究意義と研究の方向性を再評価し、色々な可能性を改めて検討しているところです。皆様の貴重なアドバイス及び温かいサポートを心より感謝申し上げます、続けて努力していきます。

(学生会員 施 変敏)





パジャジャラン大学学生からのメッセージ

*昨日と一昨日は皆様のおかげで忘れられない日になりました。皆様、いつも元気で、笑顔してくれて感謝しました。初めて皆様



を見たとき、「あっ！これは合わないかも」と思いましたが、しゃべっているときに逆でした。皆様と会えたので、幸せになりました。(アル)
*この貴重な時間と機会にありがとうございました。

<火山にて> 皆さんの熱意、好奇心、優しさに心が温まりました。

皆さんといると、まるで祖父母と一緒にいるような気持ちになりました。お別れの時は少し胸が熱くなりました。(エタ)

*タンクバンプラフのツアーもとても楽しかったです。アジ風の皆様は元気にあふれているんですね。それってすごいことだと思います。この経験は忘れられないものになりました。また、ここに来てくださいね！(マレ)

*お化けのプレゼンテーションとても面白かったです。本当に勉強になりました。一緒に歌いながら、幽霊のポーズで踊るときも楽しかったです。(マルズキ)

*楽しい体験ありがとうございました。またみんなと会いたいです！(フィタ) (註 名前はすべて愛称)

九州交流会・素晴らしかった熊本

私は11月9日に熊本で開催された交流会で司会を務めさせていただきました。九州、熊本を訪れるのは初めてで、非常に楽しみにしていました。

交流会では、日本人の会員の皆様とお話をしたり、日本三名城の一つである熊本城を見学したりしました。また、新しい友人と出会い、交流会の後、ホテルに戻ってから浴衣を着て、一緒に

写真を撮るなど楽しい時間を過ごしました。

特に阿蘇山の雄大な景色と澄んだ空気には心を打たれ、言葉では言い表せない感動を覚えました。この経験は、私の留学生活の中でも忘れられない素晴らしい思い出となりました。

(学生会員 第五回奨学生 ド・フォン・アイン)



架け橋グループ歓迎交流会

11月3日、架け橋グループ2023年度マッチング組の歓迎交流会が東京科学大学蔵前会館で開催されました。留学生6名、アジ風会員7名、オンラインで3名が参加しました。

今回のテーマは「日本についてのQ & A」。第一声は「日本のお店は閉店時間が早く、大学の講義が終わった後、遊びに行く場所が無い」。確かにコロナ以降、デパートや飲食店などの閉店時間が早まっています。次は病気になった時の対処法です。この件は、大学の先輩でもある松野芳夫さんより丁寧な説明があり、

学生たちは安心したようでした。中華食材や調味料などが入手できるお店の情報についても聞かれました。来日して2か月弱、自国の味がちょうど恋しくなる頃だからでしょうか。

特に印象に残ったのは、配布したお茶のラベルに記載されている「俳句」に興味を示したことです。五七五からなる最も短い詩の世界観を通して、日本文化への理解を少しでも深めてもらえたら嬉しいです。(正会員 坂野 仁美)



ここに幸あり(続々編)

チャン・トウ・チャンさん(正会員・貿易大OG)のベトナムでの結婚式に夫婦で参列してきました。当日の9月27日は、他にもアジ風会員、貿易大のOGたち参加で、会場は大賑わい。

なお奥山寿子副理事長ご夫妻は、後日婿殿の国シンガポールでの挙式へ参加。

チャンさんのお付き合いは、Iメイトのマッチング後15年になります。貿易大生から留学生、社会人、花嫁、そして間もなくお母さんへ、その過程を共に経

験することができ、また彼女を通して気づきや学びが多くとても幸せでした。

Iメイト交流は、よくある国際交流の形(大勢が参集し散会する形)とはならず、二人の関係が深まるシステムにしたのですが、煮詰まらないよう、他の会員や非会員など日本人との出会いを拡げていくことを心掛けました。その結果、チャンさんの人柄に惚れた応援者は大勢になりました。これからも、彼女の目標である「グローバル人材」としての活躍を見守っていきたい、と願っています。

(名誉顧問 上 高子)



<左端 奥山さん夫妻>



<上さん夫妻とアジ風会員>

会員紹介

西尾 のぞみさん

西尾さんは徳島県鳴門市に生まれ、その後現在に至るまでずっとその地で育たれた根っからの徳島っ子です。鳴門と言っても海ではなく、山に囲まれた町でしたので、小学校の頃は男の子達と一緒に山の中を駆け回ったり、防空壕の中に隠れたりする元気の良い女の子でした。

短大を卒業後梱包材料メーカーの営業事務に携わっていましたが、5年前に子供を授かり、時間的に楽な障害者用就活支援の仕事に変わりました。30代になって改めて英語を勉強し、外国の方と交流した経験からまた外国の方と交流がしたくなり、新しい機会を求めてボランティア活動に関するサイトをインターネットで探したところ、アジ風のホームページに出会い、これなら子育ても忙しく、あまり時間的余裕のない自分にもピッタリだと思っ

て早速入会されたのだそうです。

これまでに清華大学、ハノイ貿易大学、タマサート大学、パジャ

ジャラン大学、更にハノイ貿易大学と5人のIメイトと巡りあい、今も交流を続けておられます。それぞれの国柄が知れていづれも楽しいのですが、中でも思い出深いのは2023年7月に行われた創立20周年記念朗読コンテストに参加した金佑真さんが「君死にたまふことなかれ」で見事銀賞を射止めたことです。準備のお手伝いも出来たので尚更嬉しかったとか。

2024年10月発行の『別冊Iメイト便り』第20号には西尾さんと金さんの性差別問題についての交換メールが記載されました。男性に頼るのではなく自分自身に頼って自分の人生を切り開いていくのだという強い意志が感じられましたが、まさしくそのような生き方をされていて頼もしく思いました。

「これまでアジ風の活動は東京が中心と思っていましたが、西日本地区のアジ風活動が開催されているなら、子連れで参加出来れば嬉しいです」と笑顔で締めくくられました。

インタビューー：園田 成和





架け橋グループの学生さんは、Iメイトとしてマッチングを行った次の年の9月、修士2年に進級したときに交換留学生として来日して1年間の日本留学生生活を開始します。留学先の東京工業大学は今年2024年10月1日より東京科学大学となりました。今回のIメイト便りは東京工業大学への最後の交換留学生として、先日帰国した高宇萱さんと藤原ひさ子さんの交流と、東京科学大学への最初の交換留学生として、先日来日した韓京玥さんと伊藤春夫さんの交流をご紹介します。(コーディネータ 小関 高志)

藤原 ひさ子さんと高 宇萱 (コウ ウケン) さんの交流

高さん→藤原さん

2023年 5月 3日

今学期はいい授業を受けましたよ。古文書の授業です。くずし字や変体漢文などの知識を学び、新世界の扉が開いたようでした。好きな浮世絵に書かれた文字も読めるようになります。将来、この辺で研究をしたいと思います。



藤原さん→高さん

私達は古い中国や日本の文字や書は習うのに、何故か江戸時代の書は習うがありません! 不思議ですね。先年、友人から江戸時代の古文書を読み解いてほしいと依頼されて、見たこともない文字が多くて困りましたが、何とかやり遂げました。楽しい初めての経験でした。

高さん→藤原さん

以前、浮世絵に関する課題で、江戸時代の古文書を読まなければなりません。美しい字に感嘆しながらも、変体仮名が多すぎて、なかなか読めなくて、本当に死ぬほど焦りました。今、古文書の授業を受けてから、やっと状況が改善しましたよ。

ところで、去年ひさ子さんからもらった年賀状に、「とら」の「ら」の元の漢字は、もしかして「羅」でしょうか(間違ったら笑わないでね)。実は、日本書道とくずし字の両者は関係があるのに気づきました。

藤原さん→高さん



日本の文字の基は中国の漢字です。ひらかなは漢字の草書体に変化したもの。日本語に合うようにひらかなを作り出したんですね。カタカナもしかり。かなばかりの文章だと、メリハリが無く、引き締まらないので、途中に変体がなを入れます。特に、仮名書作品を書くときなどは、余白部分が重要で、そんな折に変体仮名が活躍します。例えば宇萱さんの質問の「とら」ですが、「とら」の二文字だとシンプルなので、「ら」を「羅」の変体仮名にしてみました。

高さん→藤原さん

なるほど!「余白」のためだったのか。当時の何かの書き方のルールだと思っていました。ありがとう、助かりました。

伊藤 春雄さんと韓 京玥 (ハン ジンユエ) さんの交流

伊藤さん

2024年 10月 19日

11時、元町・中華街駅で韓さんと待ち合わせをしたのですが、現れません。「あのう、すみません、乗り換えを間違えて20分ほど遅れると思います」。ほどなく駅ホームで初めてのご対面。私は岩手県一関市出身、韓さんは吉林省白山の出身なのでお互い地方出身、お互い気心が知り合える思いがしました。



まず、京都の雰囲気溢れる三溪園をゆっくり話しながら散策しましたが、韓さんの体調が悪く中華街へ行くことなく、お別れしたことが残念でした。

伊藤さん→韓さん

韓さん、こんにちは!これから三溪園を見学し、その後、中華街へ行って食事をしましょう。東京科学大では何という学科で勉強するのですか?

韓さん→伊藤さん

伊藤さん、こんにちは、はじめまして韓です。遅れてすみません。社会科学系(社会学、心理学、経済学)です。

伊藤さん→韓さん

文系もあるとはびっくり。

韓さん→伊藤さん

伊藤さんとは清華大学の学部生2年の時、Iメイトとなり1年以上交流しましたね。懐かしい限りです。あの頃を振り返ると、私は学部生の時、清華大学にある国際交流センター日本文化部の部長を務めていて、「日本の茶道」というテーマに絞って活動を行いました。日本語学部の友達と一緒に日本茶道のマナーや歴史について参加者たちに紹介し、抹茶を買って茶道体験もしました。みんな日本の茶道文化に深く興味を持っていて現場の雰囲気が盛り上がりました。利休が唱えた「和敬清寂」の精神が理解できました。ところで、突然ですが、今日体調が良くありません。残念ですが、中華街へ行くのは止めて帰ります。また、お会いできる日を楽しみにしています。

伊藤さん→韓さん

韓さん、早く元気になってね。元気になったら、またお会いしましょう。

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

2月23日

新春交流会

(於 JICA 地球広場)

4大学によるアフレコ
コンテスト

3月15日

清華大学Iメイト交流会
(オンライン)

・・・編集後記・・・

2025年、アジ風新聞に新しい編集委員2名、浅山久美子さんと山田稔さんが加わりました。これから5人でタッグを組んで参ります。

正月は、「ハレ」、非日常の祝日だ。「ケ」(日常)を時間に流されるように生きてきて、大みそかの除夜の鐘で一年を締めくくる。そして静かに迎える元旦、大都会がしんと静まったようなこの日、心が清々しくなるように感じる。

「ハレ」は一瞬で、また「ケ」の世界に戻っていくのだが、「ケ」の中にもささやかな喜びの瞬間がある。何気ない風景、自然の移ろい、人との語らいが日常を彩ってくれる。

一昨年と昨年、タマサート大学、清華大学、パジャジャラン大学を訪問。Iメイト学生だけでなく、初めて会う学生達、先生方との交流は忘れがたい瞬間の集まりだった。熊本での交流会は、九州在住の会員との楽しい会話がかった。留学生とOGを含め、総勢20名の高尾山行では、タイ、ベトナム、日本からの参加者が和気藹々と秋の登山を楽しんだ。

アジ風の地道な「ケ」の活動にも、宝石のような「ハレ」が隠れている。(島村 美智)